

学べる
憩える
快適空間

図書館の魅力

『星に願いを、月に思いを…。』

子どもから大人まで幅広くご利用いただける憩いの場「図書館」。その魅力についてお伝えしていきます。5月のテーマコーナーでは、5月26日(水)の皆既月食にちなみ、宇宙に関する本をご紹介します。壮大な宇宙の世界をぜひお楽しみください(5月5日(水・祝)～31日(月))。

※皆既月食とは、月が地球の影に入る現象です。

『月と暮らす。新版』 (藤井旭/著 誠文堂新光社)



月に関する知識や文化、古来より人々が月とどう関わってきたかを美しい写真と分かりやすい文章で紹介した一冊。巻末には月食・日食カレンダー付き。

『月学 伝説から科学へ』

(稲葉茂勝/著 ^{あがた} 縣秀彦/監修 今人舎)



あなたは月についてどれくらい知っていますか?月にまつわることがらを、科学的に、写真や図版を使ってわかりやすく解説し、日本人が月に対して感じる思いなどを紹介します。

【紹介文は株式会社図書館流通センターの書誌詳細より引用】

5月26日(水)の夜、日本全国で皆既月食が観察できます。日本で見られるのは3年ぶりで、今回はなんと地球に最も近い満月での皆既月食と言われています。18時45分から21時53分までの天体ショー。皆さん、ぜひ観察してみましょう。



モータースポーツお宝探検隊 vol.1

記念すべき第1回目にご紹介するのは、鈴鹿のモータースポーツ黎明期に2輪ライダーとして活躍された岡田健治さん(79歳 北堀江)です。

10代のころ、バイクに魅せられた岡田さん。鈴鹿サーキットが開場するとすぐに、レースの参加に必要なライセンスを取得。先着順で決まるライセンスナンバーはなんと一桁でした。それからはサーキットで練習走行を重ね、腕を磨かれたそうです。

その努力が実り、1964年(昭和39年)に開催された「鈴鹿18時間耐久レース」では総合5位、翌年の「鈴鹿24時間耐久レース」では総合3位の好成績を取めた岡田さん。プロへの道もあったものの、きっぱり2年あまりでレースの世界からは引退されました。

岡田さんの部屋には当時のトロフィー、パネル(写真)などの数々の「お宝」が、誇らしく飾られています。しかし、岡田さんは「レースを通じて学んだ忍耐、協調、友情…、それこそが私の人生の本当の宝です」と、熱い思いを語ってくれました。



▲「鈴鹿24時間耐久ロードレース」での岡田さんの走り(1965年)

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード



関西を中心に感染者数が増加するなど、新型コロナウイルスの感染拡大がとどまることをしりません。高齢者へのワクチン接種がいよいよスタートしますが、感染症発生以前のような生活に戻るには、まだまだ時間がかかりそうです。

さて、4・5月はイベントが多く行われる時期です。本来なら取材で忙しい日々を過ごすはずですが、今年も「さくらまつり」や「植木まつり」などのイベントが軒並み開催見送りに。広報の担当として、残念に思えてなりません。

今回の特集は「鈴鹿の植木」。紙面で植木まつりの画像を使おうと、過去のデータファイルを見返しました。そこに保存されていたのは、たくさんの方が訪れ、活気のある写真の数々でした。来年こそは開催してほしい。そう願いながら、そっとファイルを閉じたのでした。(一)